

DanGunn (団群) Project

団塊世代が再起動！ 群れて何が悪い！！

プロジェクトのネライ

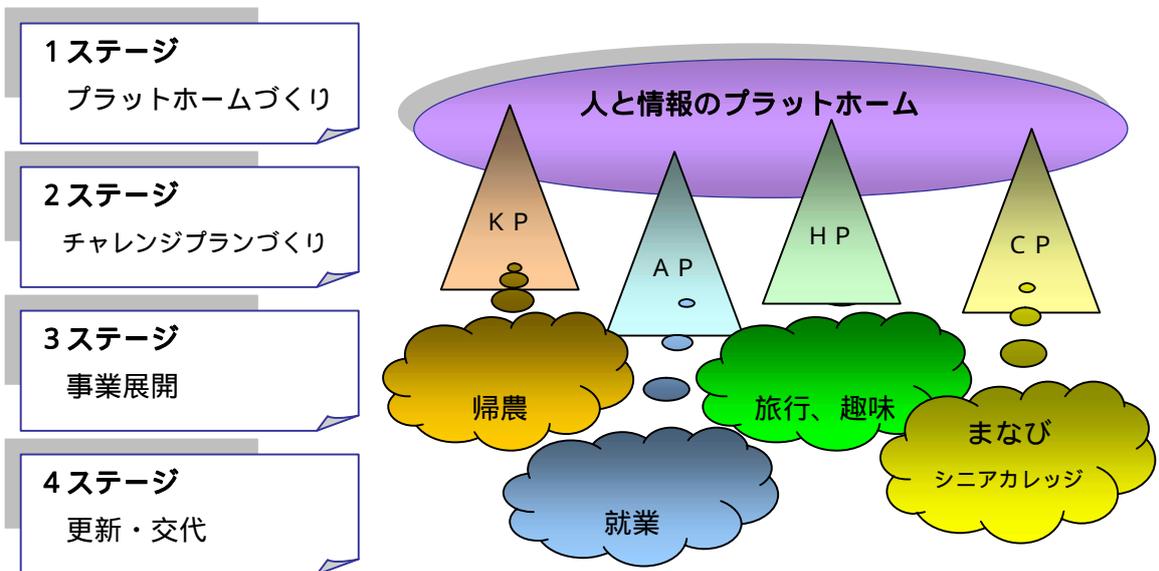
かつて、「日本を滅ぼす」と言われた団塊世代【800万人】が、60歳に突入開始しました。10年後には60歳代が【2000万人】になります。特に、戦後の経済成長を支えてきた団塊の世代が、第一線を引いてくるこれからの数年間は、高齢社会への本格的突入という大きなうねりになるものとみられます。

この世代は、大半の人が田舎をもち、大家族で育ち、直接的な戦争体験こそないものの、幼少体験には戦禍の傷跡を体感し、青春期の学園紛争、壮年期には経済成長の立役者となるなど、戦後社会の大きな変動の波を生きてきた経験豊かな世代でもあります。

一方で、経済の急成長、首都圏集中による社会の歪みはわが国のあらゆる分野に破綻を招いており、さらに少子高齢化が進行する中、労働力の確保、年金・福祉・医療など多くの問題もクローズアップされています。これらの問題に対しては団塊世代の山の動向が大きなカギを握っていると同時に、問題解決への一助となることも期待されているのです。グローバリズムによる歪みを地方から修復していくことも可能でしょう。日本社会を地殻変動させる可能性を秘めているともいえます。団塊世代を中核としたシニア層は、既に成人人口の過半数を超えており、この核である大きな群れを再起動させ、21世紀の世直しの仕組みに取り込んでいくことが急務とみられます。

こうした背景を踏まえ、本プロジェクトでは、団塊世代の60歳台突入を契機として、九州地域における団塊とシニア層の新たな現役社会・アクティブシニアへの道筋を探りながら、実践に移していく仕組みづくりを検討し、自由闊達な地域づくりを形成していくことをネライとしました。

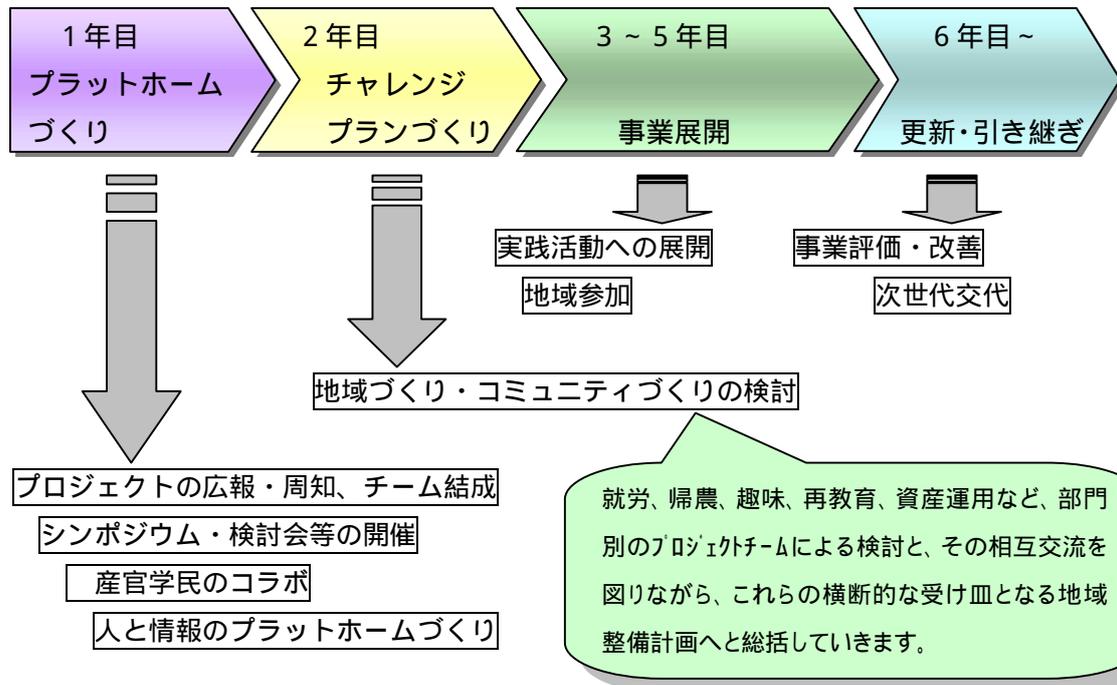
プロジェクトの目標



KP, AP, HP, CP : 分野別プロジェクトチームの例

プロジェクトのロードマップ

本プロジェクトは、次のようなロードマップを想定します。



チーム結成、プラットフォームづくりのイメージ

現在、団塊世代やシニア層に向けた様々な支援策が動き始めていますが、行政の縦割りのな仕組み、受け手である当事者の様子見状態、さらには地域実態とのギャップなどにより、今後の展開に多くの課題を残しています。

今後、これらの実効力を上げていくためには、**地域の現状に根ざした横断的な取り組み**が必要であり、あらゆる情報や人材資源などを自由を選択できる仕組みが必要となります。

各地域において**団塊世代やシニア層が何を考え、また地域から何を求められているか**を探り、これに応えるための手立てを考えていく必要があります。

この第一段階として、推進役となる準備会を発足させ、キックオフ・シンポジウムの開催により、**プロジェクトの広報・周知を図り、協働者を募ります**。

第二段階では、**地域シンポジウムに展開**させ、地域の具体的な考えや活動実態、動向などを探り、自治体やNPO、企業等へ働きかけを行い、**産官学民によるプロジェクトチームへと拡大**させます。

第三段階で、収集した情報・課題などの集約を図り、**IT活用情報プラットフォームを構築**し、具体的活動展開への基盤づくりを行います。



これらの活動を通じて、**団塊世代やシニア層に「アクティブシニア」としての展望を発見**してもらい、**実践活動へと具体化**していきます。

V. チャレンジプラン・地域づくりのイメージ

チャレンジプラン・地域づくりのイメージとして福岡都市圏近郊を題材として提示します。

地域選定の理由

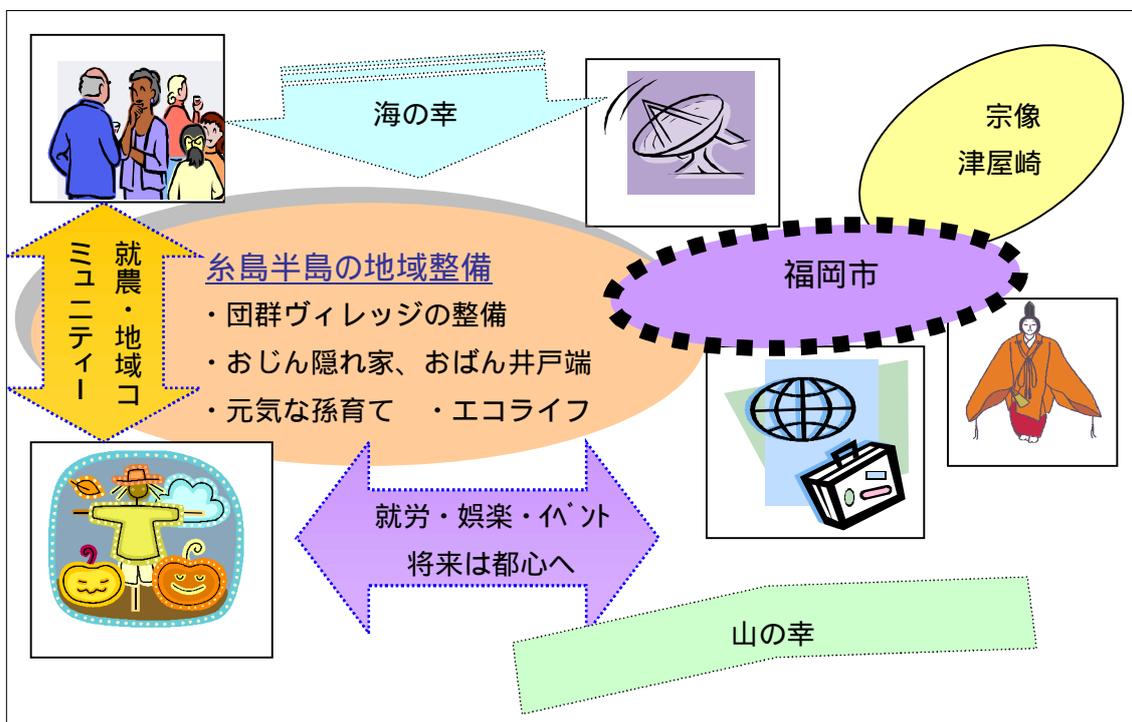
- >生涯現役社会を展望していくうえでの主役である高齢層が、多く存在する。
- >圏域の高齢層には蓄積された仕事能力が、質・量ともに豊富である。
- >雇用延長による就業機会が多い。都心部への通勤が容易。
- >玄界灘、博多湾、脊振山系など優れた自然景観やレジャー資源に恵まれる一方、九州を代表する都市機能をも享受できる。1時間圏内にあり、利便性が高い。
- >福岡転勤経験者などのUターン希望が多い。
- >後期高齢段階になると、都心部への回帰が容易。次世代交流&交代への機会が多い。

団塊世代およびシニア層の一次定年後の行動の想定 団塊太郎夫妻のケース

- >就業継続で、余暇時間を確保。
- >余暇時間を、菜園、旅行、ボランティアに充てながら、サムマナー確保の方策を練る。
- >60代半ばで、半農半Xでサムマナーを確保。
余暇活動・社会活動にシフト。
- >孫育てを支援し、多世代型の地域社会を再構築する。
- >次世代に受け継がれる60代の暮らし方モデルの実現と居住エリアなどの基盤整備。半田舎暮らし
- >基盤整備には、団塊世代が主役となる。仕事能力を結集!



団塊太郎夫妻はこんなところに住みたい【五箇年計画】!



「DanGunn(団群)Project」提案の概要

団塊世代【800万人】が、60歳に突入開始し、10年後には60歳代が【2000万人】になります。高齢社会への本格的突入により、労働力の確保、年金・福祉・医療、地域格差など多くの問題も拡大されていきます。こうした背景を踏まえ、本稿では、九州地域の活性化を目標とした、団塊とシニア層の「新たな現役社会・アクティブシニア」への道筋を探りながら、実践に移していく仕組みづくりを検討し、多世代型の自由闊達な地域づくりを整備していくためのプログラムと、イメージプランを提案します。